

子どもの発達を考える会 演題『困り方に困っている子を支える』

星槎大学大学院教育実践研究科 教授 ^{あべ}阿部 ^{としひこ}利彦 先生



【阿部 利彦 先生の御紹介】

1968年生まれ。早稲田大学人間科学部卒業。東京国際大学大学院社会学研究科修了後、東京障害者職業センター生活支援パートナー（現ジョブコーチ）、東京都足立区教育研究所教育相談員、埼玉県所沢市教育委員会健やか輝き支援室支援委員などを経て現職。長年、発達障害がある子とその家族の相談支援に携わり、その豊富な経験から全国各地で多数の講演会や研修会の講師を務める。

☆著 書☆

『これで書ける！サクサク作文サポート』（東洋館出版社 2021年）

『発達障害の子どもたちから教わった35のチェンジスキル』（合同出版 2020年）

『人的環境のユニバーサルデザイン』（東洋館出版社 2019年）

『これだけは知っておきたい 発達が気になる児童生徒の理解と指導・支援：多様性のある子どもたちのあしたのために』（金子書房 2019年） 他多数

11月15日（火）ライフパーク倉敷大ホールに阿部先生をお招きし、集合形態で開催しました。保護者の方をはじめ、市内の保育所、幼稚園、認定こども園、倉敷市立学校の先生方に受講いただきました。

「困っている」と人に伝えることは、生きていくために必要なスキルです。困ったことがあっても人に言えず一人で悩み、抱え込む、静かに困っている子、困り方に困っている子をどのように応援していけばよいのか、家庭や学校でできることをたくさん教えていただきました。

《受講者の感想》

- 子どものネガティブな面、できないところにばかり目がいっていたので、できるところ、良いところなどにしっかり目を向けて、言葉で伝えたり書いたりして、自己肯定感を高められるようにしていきたいと思いました。レジリエンス（立ち直り力）という言葉は初めて聞きましたが、これから意識しながら生活していきたいと思います。（保護者）
- SOSを出せない幼児がどうすればSOSを人に伝えられるようになれるかと考えていましたが、「出させよう」「伝えさせよう」とするのではなく、困っていることを受け止めつつ、日々の生活の中で自己肯定感が高められるように接していきたいです。「あなたの応援団ですよ」ということが伝わるようにしていきたいと思いました。（幼稚園）
- 支援の面でも勉強になりましたが、自分自身のこととしてもあてはまる、考えさせられる講演でした。受容的で信頼できる存在になることが大切なのだと思いました。普段の振り返りの中でもポジティブなことへの振り返りを意識していきたいです。（認定こども園）
- 困っていても援助を求められないから困っている子がたくさんいることを知りました。声があげにくくても、この人になら言ってみようと思ってもらえる教師になりたいと思いました。そして、困っている子どもたちの「信頼できる他者」になりたいと強く感じました。（小学校）
- 「援助要請の能力は発達するものであり、育てることができる」という考え方は目からうろこでした。生徒が自分の能力を伸ばしながら成長していくために大切な視点だと思いました。援助要請スキルの段階を頭に置いて、子ども達に接していきたいと思いました。（中学校）
- 子どもたちは大人をよく見ているので、私自身がよい手本となるように日々の行動、発言に気を付けたいと思いました。少しの声かけの工夫で、子どもの気持ちが大きく変わっていきます。そのことが子どもたちの自己肯定感へとつながり、そして未来につながるので、丁寧な声かけや行動をしていきたいです。（指導員）



研修風景



生徒指導研修 演題「愛着障害の理解と愛着の問題への支援」

11月25日（金）ライフパーク倉敷大ホールで、昨年度に引き続き講師の和歌山大学教育学部 教授 米澤好史先生とオンラインでつなぎ、集合形態で開催しました。会場では生徒指導主事等約130名の方々に受講いただきました。

愛着の問題について、改めて発達障害との関連性や違いについての知識を与えていただき、その子どもが発信している言動の根拠を正しい視点から理解した上で個々のタイプに応じた適切な支援をすることの重要性を御説明いただきました。



《受講者の感想》

- ・私個人が安心基地になりたいと思うと同時に、それぞれの職員がキーパーソンになる力が必要だと思いました。
- ・どの子どもにも1対1での関係になれる場を少しでも多くとっていきたいです。
- ・ネガティブな感情を減らすためポジティブな感情を生じさせることが効果的とのことなので取り入れたいです。
- ・「正しく知る」ということは、教師、親、子どもにとっても「WIN-WIN-WIN」になるのだと感じました。
- ・感情のラベリング、人間関係の橋渡しなどの修復プログラムを実践しようと思いました。

初任者研修（幼小連携・小中連携）



第10回初任者研修では、小学校は葦高幼稚園に、中学校は富田小学校にそれぞれお世話になり、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携をテーマにした研修を実施しました。円滑な接続について考える貴重な学びの場となりました。

（小学校受講者の感想から）

子どもの遊びが学びにつながるような場づくりや声掛けをされているところが印象に残りました。場づくりでは、行事などの体験を反映していると思いました。また、日々の子どもの実態に応じて、毎日環境を少しずつ変えていることに驚きました。私もクラスの子どもの様子に合わせて、日々の授業を工夫していけるような教師になりたいと思いました。

幼稚園の先生は、一人一人を見ることを大切にしている保育されていることがわかりました。忙しい日々の中で、つい全体の様子で子どもを見ていたつもりになっていたことに気づき、反省しました。私も一人一人の子どもに合わせた目標設定や声掛けができるような、「個」を大切にする教師を目指していきたいです。

園長先生のお話を聞いて、子どもが自ら課題を発見し、学びを深めていけるような支援が大切だと強く感じました。私は子どものことが心配になってすぐ助言をしたり、手を貸したりしていたので、もっと子どもの力を信じて見守り、子どものもつ力を引き出していけるような教師になりたいと思いました。



（中学校受講者の感想から）

小学校と中学校では発達段階による違いはありますが、共通点も多くありました。子どもたちが小学校でどんな力を身に付けてきたのか知り、中学校3年間でさらに伸ばすことが大切だと思いました。自分の中学校の生徒も小学校でこのように学んできたのだと知ることができ、小中連携の必要性を感じました。

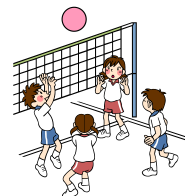
小学校の授業では、めあてを教師が提示するのではなく、子どもと一緒にめあてにたどり着く過程を大切にしていました。子どもが自分の考えをもつことができるように導入を工夫し、「すべての子どもを学びの土台に乗せる」授業を目指したいです。

小学校では学習規律が徹底されていて、それは小学校の先生方が子どもに日々丁寧に関わって指導されてきたからだと思いました。めあてを子どもから引き出すこと、つばやきを全体につなげること、子どもが自信をもって発言できる雰囲気をつくることなど学んだことを生かして、中学校でも生徒が「わかる楽しさ」を実感できる授業づくりをしていきたいです。





倉敷ふれあい教室の行事



倉敷ふれあい教室では5教室合同で体験活動を行っています。教室の仲間と協力することの大切さや、やり遂げた喜びを感じることを目的としています。今年度は感染症対策を十分に行いながら、3年ぶりに「自然体験学習」と「スポーツ大会」を実施することができました。室外の行事や日々の生活の中でも、他教室や自分の教室の仲間との絆を再確認することができるよう工夫を重ねています。

ふれあい自然体験学習 (7/1(金) 倉敷市自然の家)



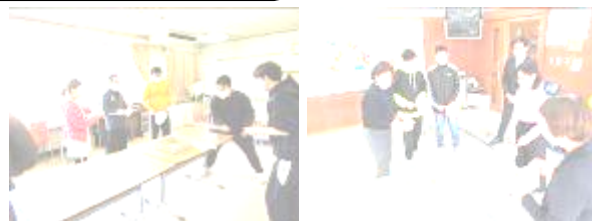
自然の家の指導員の方が親睦レクリエーションで緊張をほぐしてくれました。よく冷えたおいしいぶっかけうどんをいただいた後、所内オリエンテーリングで協力してポイントを獲得しました。

ふれあいスポーツ大会 (9/16(金) ライフパーク倉敷 大ホール)



準備運動で体をほぐしてから、5教室対抗のスローイングビンゴでは作戦を立てながらリーグ戦をしました。昼食をはさみ、教室混合の3チームでフリスビー的に向かってドッチビーを投げ入れて得点を競いました。

ふれあいクラスマッチ



今年度実施のクラスマッチ課題

5月 『牛乳パックジェンガ』	6月 『めざせ! 漢字王!』
7月 『新聞ビリビリリレー』	9月 『ヒットペット』
10月 『ペットボトルキャップ釣り』	11月 『ティッシュ IN GOAL』

互いに離れた教室同士でも一体感をもつことができる合同行事として、毎月、共通の課題に挑戦しています。身近にあるものを活用して、シンプルでありながら緊張感のある課題について、楽しみながら記録を競い合っています。クラスマッチでは、協力する中で仲間との関わり方を学んだり、成功することによる自己肯定感を向上させたりする等の効果を狙っています。

ふれあい文化祭・ふれあい参観日 (11~12月 各教室)

【倉敷教室】	12月15日(木)~16日(金) 参観日
【水島教室】	12月14日(水) 文化祭
【児島教室】	12月6日(火)~8日(木) 参観日
【玉島教室】	11月21日(月) 文化祭
【真備教室】	11月18日(金) 参観日



「子どもたちが自ら考え、達成感を味わうようにする。」「学校の先生や保護者と子どもたちが関わる場を設定する。」この2点の方針のもと、各教室で特色のある催し物や作品の展示などを行っています。準備では全員がそろう日はありませんが、登室日には協力して本番の練習や展示物の製作に取り組みました。

倉敷ふれあい教室めぐり

☆ 恵まれた教育環境の中で
のびのびと・・・

☆☆ 倉敷教室 ☆☆

倉敷ふれあい教室倉敷教室は、くらしきシティプラザ西ビルの8階にあります。窓からは倉敷市内が一望できます。倉敷駅に隣接しており、交通の便のとても良い場所です。

周辺には、倉敷みらい公園、倉敷美術館、自然史博物館、倉敷中央図書館、美観地区、北児童センターなど多くの文化施設や教育施設があり、恵まれた環境の中で様々な活動に取り組んでいます。

「なかよし活動」では折り紙や手芸、工作などの創作活動、書道や英語などの学習活動、その他にも映画鑑賞や倉敷みらい公園でスポーツなども行っています。地域に出かける活動としては、倉敷中央図書館での



[折り紙]

読書、自然史博物館での見学、美観地区や教室周辺の散策、阿知神社の年中行事への参加などがあります。

「スタディ」の時間は机に向かい、それぞれ自分に合った学習内容に一生懸命取り組んでいます。

倉敷教室の今年度の目標である「一步一步」をキーワードに、一人ひとり苦手なことにも勇気をもってチャレンジし、次の活動へつなげていけるように頑張っています。「やってみたらできた」という達成感や「やればできるんだ」という自信がもてるよう、日々いろいろな活動に取り組んでいます。



[みらい公園]

☆ 友だち作り ☆ 体力作り
☆ 野菜作り ☆ 楽しく元気に活動

☆☆ 児島教室 ☆☆



[アーチェリー] 日は午後1時まで)

倉敷ふれあい教室児島教室は、元幼稚園の広い敷地で様々な活動をしています。学習などの活動は教室でしますが、体育室・図書室・調理室、屋外には広い運動場もあります。

通室日は月曜日から金曜日、午前9時30分から午後3時までです。(水・木曜

「なかよし活動」では、スポーツ・創作活動・栽培活動・ボランティア活動などに取り組んでいます。「スタディ」の時間では、自分に合った勉強に自主的に取り組み、一人ひとりが自分のペースで進めています。

7月には、講師の先生に来ていただき、アーチェリーを体験しました。最初は弓を引くだけでも大変でしたが、少しずつ矢が的に当たるようになり、大きな達成感を味わうことができました。

その他に図書館に行ったり、散策したりなど教室外に出かける活動もあります。ゆっくりと散策をすると、普段は気付かなかった植物の美しさや地域の文化に触れることができます。

豊かな自然の中で木々や鳥の声に癒され、四季を感じながら、みんなで楽しくのびのびと過ごしています。



[スタディ]